

# 石高神社

## 第二十六号

発行日 平成二十年十二月十五日

発行者 石高神社 宮司 高原 章兆

発行所 岡山市円山八五三

電話 二七七・九〇〇三

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~ishitaka/>

### 隨身門修復費寄進の御礼とお願い

隨身門の修復工事につきましては、ご理解をいただき寄進をお願いしているところでございます。すでに、ご寄進を賜りました皆様方には、厚く御礼申し上げます。十月末の時点で十八の町内単位で寄進を賜りましたが、目標額の三分の一をわずかに超えた額にとどまっております。このままでは、とうてい目標額の半分にも届きそうにありません。なにとぞ、より一層のご協力をお願い申し上げます。第でございます。正月にお参りの際には、新しくできた社務所にて、ご浄財の寄進を受け付けていますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

なお、一万円以上の寄進を賜った方の御芳名をよく見える所に掲示することが、秋の総代会で決まりました。二回以上に分けて寄進された場合には、最終的に合計して掲示します。それまでは、仮掲示する予定です。

すでに寄進をしてくださった皆様方には、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。

### 隨身門の屋根・石造物に注意

現在の状況では、隨身門の修復工事にとりかかるまでには、時間がかかりそうです。工事が遅れましても、平成十六年に屋根の応急修理をしていますので、門自体が急につぶれることは、無いと思われます。しかし、年数が経過するほど、雨風のあとに屋根瓦が落ちる可能性が高くなってきます。東西側の屋根地が下って危険な状態になっていきますので、門の東西に赤いコーンを置いていきます。注意してお通りください。

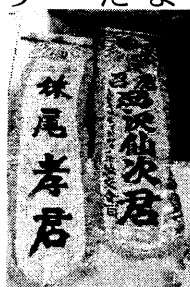
また、境内地内には、石でできた玉垣や灯籠などがたくさんあります。これらは、上に乗ったり、ぶらさがったりするものではありません。遊び盛りのお子様がおられるご家庭では、日ごろからご注意をお願い致します。



## 昔あつた行事② 出征祈願

今年十月に幡多学区戦没者慰霊の碑が完成しました。行事とは言えませんが、この機会に当社に残っている出征旗を紹介します。出征の際、奉納されたと思われる同じような形式の旗が十枚ほど残っています。村の代表や家族・親族をはじめ多くの人々が集まって武運長久を祈ったようです。

今、私たちは、平和な暮らしをしています。神様にたよらなくても自分の力だけですべてやっていけると思ってしまうがちです。「困った時の神頼み」ということわざがありますが、今の時代は幸せなことに、多くの人は神さまにすがらなくてもよい時代です。七十年ほど前に行われた神事と先人達の苦しみを思い浮かべ、感謝の気持ちを忘れてしまわないようにしたいものです。



## 社務所完成 その経過

社務所の屋根に穴があき、床も落ちて危険になったため、二十年前に倒して、ブロック塀を築いていました。その後、次々と修理の必要な箇所があつたため、再建の目的が

立たないまま十年近くたつてしまいました。そこで、御神札の頒布収入を全額拠出して、その資金で再建する計画を立てました。そして、やつとある程度の資金が貯まったので、昨秋着工の運びとなりました。しかし、昨年六月に建築基準法が変わつていたため、当初予定の基礎部分の工事では建築許可が降りないという事態になりました。その結果、基礎部分に予定外の費用がかかることになり、当初の予定額の一千万円を大幅に上回ることになってしまいました。すでに神社庁の許可も受けて地鎮祭も済ませていましたので、延期するわけにもいかず、前に進みました。唯一見積もりより安くついたのは瓦です。社報で社務所再建計画を見られた方が十五年前に屋根瓦を寄付してくださいましたからです。使われないまま参道脇に置いていたのをご存知の方も多いいと思います。いたずらなどでかなり壊されていましたが、新しいものをあまり使わなくてもすむくらいありました。瓦を運んで一枚一枚洗うのも大変な作業でした。いろいろな苦勞の結果、やつと今年七月に完成しました。宮司にとっては、ひととき感慨深く畳に頬をすりつける思いでした。しかし、まだ多くの未払い金があり、借金でその場をしのいでいる状況です。



## 石高神社御祭神

御祭神 大己貴命 須勢理姫命  
おおなむちのみこと すせりひめのみこと

配 祀 仲哀天皇 神功皇后 応仁天皇  
ちゅうあいてんのう じんくうこうていおう おうじんてんのう

出雲の神様を主祭神に、合わせて八幡様をお祀りしています。大己貴命は出雲神話の主役であり、別名もたくさんありますが、神話の「因幡の白うさぎ」に登場する大国主命として有名です。また、仏教の守護神と習合して、七福神のひとりである大黒様としても知られています。須勢理姫命は正妻です。

仲哀天皇・神功皇后や応神天皇を祀る神社は八幡宮と称し、全国でもっとも多い神社です。仲哀天皇は第十四代の天皇で神功皇后と共に熊襲平定に出向きましたが、負傷して亡くなられました。この意志を受け継いだ皇后は、難無く熊襲を平定し、さらに新羅へ進攻し、勝利をおさめました。これが第十五代の応神天皇です。

## 石高神社由緒来歴

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳

で一番古い備前国総社神名帳（八六三年頃）に石高神社と載っています。しかし、平安時代の諸制度を編纂した延喜式（九二七年）の神名帳には載っていませんので、式外社（しきげしや）ということになります。当時備前の式内、式外古社は百二十八社あったと言われており、この内の一社です。

社伝によりますと、昔には今の宮山から北手にあります高倉山（地図には石鉄山とある）の頂上に大己貴命を祀る石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮がありました。この両社を天和三年（一六八三年）頃に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬していました。このため、江戸時代の書物には、八幡宮として載っています。須勢理姫命を祀る八幡宮とはおかしいのではないかと、いうご指摘がありました。明治に書かれた覚書にそう書いてあるのです。神様にも流行があり、武士の時代には、今は従になっている八幡神が前面に出ていました。

その後明治四年に旧号の石高神社に戻り、幡多郷の総鎮守産土神と定められ、大正三年には村社になりました。幡多郷というのは、一七二一年編纂の備陽記によりますと、清水・赤田・藤原・高屋・関・沢田・山崎・円山・湊の各村をさしており、当社は古代から栄えていた操山山系の北側や新たに開発された南側の人々の生活や湊方面を航行する船の安全を護つて来ました。

# 石高神社のおもな行事

## 歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後と三日の午前九時ごろから夕方まで新年の家内安全祈禱を行います。

## どんど焼きおよび古神札焼却祭

平成二十一年の「どんど」は一月十七日(土)の午前十時からです。昼までには、終わります。正月のお飾りのほか、同時に古札焼却も行います。なお、最近問題になっているダイオキシン発生の観点から、プラスチック類はなるべくはずしてご持参ください。毎年、はずした後に焼いています。

## 厄払い

厄年と祝いの年の方がお参りする慣わしです。当社では、二月一日が厄払いの日ですが、正月二が日または節分までにお参りください。

## 輪くぐり(夏祭り)

七月三十一日晚六時ごろから九時前まで、茅の輪をくぐる「輪くぐり」があります。事前に配布された「ひとがた」に家族の生まれ歳の干支、男女の別などを書いて身を払っ

平成21年厄年表

女 19 歳	平成 3 年生
男 25 歳	昭和 60 年生
女 33 歳	昭和 52 年生
男 42 歳	昭和 43 年生
男女 61 歳	昭和 24 年生

当日、お手伝いをお願いします。

てご持参ください。夜店も出て賑わいます。

## 秋祭り

十月三日から五日の三日間です。三日の晩が氏参りの日になっており、この日は夜店やはっぴ姿の子供達と賑わいます。晚六時ごろから九時前までにお参りください。五日は祭典を行っています。

## 七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を言い、以後の無病息災を祈願します。十一月にお参りください。

その他、初宮参り、病氣平癒祈願、自動車清祓、家祈禱、地鎮祭等、平日も随時お受けしております。

## ホームページ

昨年十二月から左記のアドレスに変わっています。

<http://www4.ocn.ne.jp/~ishitaka/> 今年の社報には、古い

アドレスが書いてあり、ご迷惑をおかけしました。

